

## 第 2 回二州地区高校教育懇談会

### 協 議 資 料

#### 【目 次】

- I 第 1 回二州地区高校教育懇談会における主な意見 …… P 1
- II 二州地区の県立高校再編整備の方向性について …… P 2

# I 第1回二州地区高校教育懇談会における主な意見

## 1 再編整備について

- 再編整備に当たっては、メリットやデメリットについて明確にしないと、スムーズに進まないのではないか。
- 会議の出席者と市民が考えていることには、ズレが生じると思うので、市民の意見を聞く場を設けたらどうか。
- この懇談会に参加する以上は、地区の高校をこうしたいという意見を言って、ここで素案を作るべきではないか。ここで二州地区の再編に対する意見をきちんとまとめようという機運が必要である。
- せっかく就職しても途中で挫折する人がいる。高校を卒業した人の再教育をするような体制を検討してもらえないか。
- 生徒の、いろんなことをやってみたいという気持ちをちゃんと受けとめようという再編には賛成である。就職してからもその気持ちを持ち続け、チャレンジ精神をどんどん伸ばせるようになるとうい。

## 2 職業系専門学科について

- 職業系高校への進学を目指す子どもや今の産業界が何を本当に望んでいるかについて、もっと地域の産業界、市民、学校などと密に中身を練り上げていく必要があると思う。

## 3 二州地区の県立高校について

- 親は嶺北の高校が魅力的に思い、子どもに進学を薦めるのではないか。今後、中学と高校がもっと連携を模索し、地域が何を望んでいるかを探っていくないと、嶺北へ生徒が流れるという傾向は変わらないと思う。
- 大きく育つためには、福井県から出て教育を受けてみることも大切だと思う。二州地区から県外の大学に進学する割合が高いという話があったが、親としては、子どもたちに大きな夢や目標を持ってもらいたい。県外大学を目指すことが一概に悪いとは考えていない。
- 福井大学の先生などから、高校のレベルでも原子力のことは十分勉強できると聞いた。敦賀工業高校に原子力関連の学科を作してほしい。
- 敦賀には国際港である敦賀港がある。商業科で、ロシア語、中国語、韓国語などの外国語を選択して学べるようにしてほしい。
- 工業科、商業科、情報処理科、家庭科をひとつのグループにして、再編整備するのはどうか。
- 発電所は、原子力科を卒業した人だけではなく、電気科や機械科など、いろんな専門の人が集まって成り立っている。その人たちの7割強が地元の福井県出身者であり、企業としても魅力づくりをしなければならない。

## Ⅱ 二州地区の県立高校再編整備の方向性について

### 1 職業系専門学科の現状と課題

#### (1) 敦賀高校商業科（商業科、情報経理科）

- ・ 卒業生の進路状況は、進学と就職がほぼ同数（若干就職が上回る）。進学先は専修学校等が最も多い。
- ・ 県内での就職者の割合が高く、職種は事務が最も多い。
- ・ 資格取得率が高く、一人で3つ以上の1級資格を取得した生徒も多い。

【卒業生の進路状況】

〔※上段は人数(人)、下段は割合(%)〕

卒業年月	進学				就職	その他	合計
	大学	短大	専修等	小計			
H19.3	10	10	27	47	56	1	104
	9.6	9.6	26.0	45.2	53.8	1.0	100.0
H20.3	9	11	31	51	55	0	106
	8.5	10.4	29.2	48.1	51.9	0.0	100.0
H21.3	11	8	30	49	62	1	112
	9.8	7.1	26.8	43.7	55.4	0.9	100.0
3年間の平均	10	9.7	29.3	49	57.7	0.6	107.3
	9.3	9.0	27.3	45.6	53.8	0.6	100.0

- ・ 例年、志望者数が定員数を上回っており、入学者数はほぼ定員を満たしている。

年度		志望者数 ※	定員数	入学者数
H19	商業科	136	72	72
	情報経理科		36	36
H20	商業科	126	72	70
	情報経理科		36	33
H21	商業科	117	70	69
	情報経理科		35	35
H22	商業科	130	72	—
	情報経理科		36	—

※ 例年9月に実施する進路志望調査結果による

#### 【課題】

- ・ 職業系専門学科としての専門性の向上
- ・ 多様な進路志望への対応
- ・ 地域に根ざして活躍する人材の育成

(2) 敦賀工業高校（電子機械科、電気科、建築システム科、情報ケミカル科）

- ・ 卒業生の約7割が就職しており、県内での就職者の割合が高い。
- ・ 進学・就職先と学科との関連性が高い。
- ・ 原子力、エネルギーに関する教育にも積極的に取り組んでいる。

【卒業生の進路状況】

〔※上段は人数(人)、下段は割合(%)〕

卒業年月	進学				就職	その他	合計
	大学	短大	専修等	小計			
H19.3	10	3	23	36	98	1	135
	7.4	2.2	17.1	26.7	72.6	0.7	100.0
H20.3	11	9	16	36	89	1	126
	8.7	7.2	12.7	28.6	70.6	0.8	100.0
H21.3	4	8	28	40	78	4	122
	3.3	6.5	23.0	32.8	63.9	3.3	100.0
3年間の平均	8.3	6.7	22.3	37.3	88.3	2	127.6
	6.5	5.2	17.5	29.2	69.2	1.6	100.0

- ・ 例年、志望者数が定員数を上回っており、入学者数はほぼ定員を満たしている。

【志望者、定員、入学者数の推移(直近4年間)】

年度		志望者数※	定員数	入学者数
H19	電子機械	150	30	30
	電気		30	31
	建築システム		30	31
	情報ケミカル		30	30
H20	電子機械	162	32	32
	電気		32	32
	建築システム		32	32
	情報ケミカル		32	29
H21	電子機械	178	31	32
	電気		31	32
	建築システム		31	32
	情報ケミカル		31	31
H22	電子機械	185	32	—
	電気		32	—
	建築システム		32	—
	情報ケミカル		32	—

※ 例年9月に実施する進路志望調査結果による

【課題】

- ・ 職業系専門学科としての専門性の向上
- ・ 地元の産業を担う優れた工業技術者の養成

### (3) 美方高校家庭科（生活情報科、食物科）

- ・ 卒業生の約5～6割が進学。進学先は専修学校等が最も多い。近年は、大学への進学者も増加。
- ・ 食物科は、県立高校で唯一、調理師養成施設として指定を受けている。
- ・ 開校当時から、地域の学校として、地域の大きな支援を受けて発展。
- ・ 地元中学校との中高一貫教育を実施。

#### 【卒業者の進路状況】

〔※上段は人数(人)、下段は割合(%)〕

卒業年月	進学				就職	その他	合計
	大学	短大	専修等	小計			
H19.3	1	12	24	37	34	1	72
	1.4	16.7	33.3	51.4	47.2	1.4	100.0
H20.3	6	13	26	45	23	0	68
	8.8	19.1	38.3	66.2	33.8	0.0	100.0
H21.3	9	9	18	36	35	0	71
	12.7	12.7	25.3	50.7	49.3	0.0	100.0
3年間の平均	5.3	11.3	22.7	39.3	30.7	0.3	70.3
	7.5	16.1	32.3	55.9	43.7	0.4	100.0

- ・ 例年、志望者数が定員数を上回っており、入学者数は定員を満たしている。

#### 【志望者数と定員数の推移(直近3年間)】

年度		志望者数※	定員数	入学者数
H19	生活情報	98	36	37
	食物		36	37
H20	生活情報	83	36	36
	食物		36	36
H21	生活情報	77	32	32
	食物		32	32
H22	生活情報	89	33	—
	食物		33	—

※ 例年9月に実施する進路志望調査結果による

#### 【課題】

- ・ 職業系専門学科としての専門性の向上
- ・ 生徒や社会の多様なニーズに対応した教育体制の整備
- ・ 地域に根ざして活躍する人材の育成

## 2 職業系専門学科の再編の方向性

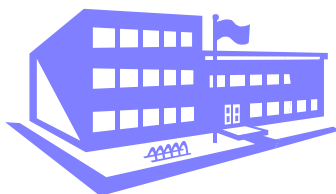
職業系専門学科の再編整備について、高問協答申や第1回二州地区高校教育懇談会での意見を踏まえ、想定される再編のイメージを提示する。

### 【方向性1】

- ・ 敦賀高校商業科と敦賀工業高校を統合し、工業系学科と商業系学科を併設する高校を設置（嶺南地区における商業と工業の拠点校として位置付け）
- ・ 敦賀高校は、地元の普通科単独校として大学等への進学志望に対応した教育体制を強化
- ・ 美方高校は、現在のところ適正規模を保っていること、調理師養成施設としての指定を受けていることから、当面は現在の体制を維持。

### 【拠点校のイメージ】

## 工業・商業の拠点校



工業系学科

商業系学科

- ・ 工業系学科と商業系学科は、それぞれの分野に特化した学習を行う（総合選択制はとらない）。
- ・ 工業系学科と商業系学科が併置されていることを生かし、ものづくりから流通・販売までの一連の流れを体験できる機会を設けるなど、実践的な職業教育を推進。

◆ 参考：商業科と工業科を併置した公立高校の設置状況

No.	都道府県	学校名	設置学科	募集定員	備考
1	北海道	稚内商工高等学校	機械科	40	・H21 事務情報科募集停止 ・H23 稚内高校と統合予定
			商業科	40	
2	秋田県	湯沢商工高等学校	商業科	35	・H23 湯沢北高校と統合予定
			情報処理科	35	
			電子機械科	70	
3	岩手県	釜石商工高等学校	機械・電子機械科	80	・H21 釜石工業高校と釜石商業高校を統合し開校
			電子電気科	40	
			総合情報科	80	
4	栃木県	鹿沼商工高等学校	情報科学科	40	・H21 国際経済科募集停止 ・定時制併置：商業科1学級
			商業科	160	
5	群馬県	館林商工高等学校	生産システム科	80	・S60 開校 ・くくり募集(工業科80、商業科160) ・生産システム科にコース設定(機械システム、電気システム)
			建築科		
			情報ビジネス科	160	
			総合ビジネス科		
6	神奈川県	県立商工高等学校	商業科	40	H22年度に総合学科高校への改編を予定していたが、当面の間先送り(⇒耐震化対策として補強工事等を実施する必要があり、当初予定していた新校としての教育活動の展開が困難となる見込みであるため)
			情報処理科	40	
			国際経済科	40	
			機械科	40	
			電気科	40	
			化学科	40	
7	新潟県	塩沢商工高等学校	商業科	120	・コース設定：商業4、機械3 ・1年次は共通履修、2年次からコース分け
			機械システム科	80	
8	岐阜県	関市立関商工高等学校	機械科	80	・H21 学科改編(8科⇒4科) ・定時制課程(機械科)併置
			建設工学科	40	
			電子機械科	40	
			総合ビジネス科	160	
9	山口県	徳山商工高等学校	機械科	40	・H18徳山工業高校と徳山商業高校の統合により開校 ・環境システム科にコース設定(環境土木、工業化学)
			電子情報技術科	40	
			環境システム科	40	
			総合ビジネス科	40	
			情報ビジネス科	40	
10	山口県	萩商工高等学校	総合ビジネス科	40	・H18萩工業高校と萩商業高校の統合により開校 ・建設工学科にコース設定(建築、土木)
			情報デザイン科	40	
			電気科	35	
			機械科	35	
			建設工学科	35	
11	山口県	柳井商工高等学校	機械科	40	・H18柳井工業高校と柳井商業高校の統合により開校
			建築・電子科	40	
			ビジネス情報科	80	
12	熊本県	鹿本商工高等学校	商業科	80	・S43鹿本高校と山鹿高校の統合により開校
			情報管理科	40	
			機械科	40	
			電気科	40	
			電子機械科	40	
13	鹿児島県	川内商工高等学校	機械科	120	・S31開校
			電気科	80	
			インテリア科	40	
			商業科	80	
14	沖縄県	名護商工高等学校	生産システム科	40	・H19名護商業高校と北部工業高校の統合により開校
			電建システム科	40	
			総合情報科	40	
			商業科	40	
			ファイナンス科	40	
			ビジネス情報科	40	
15	沖縄県	八重山商工高等学校	商業科	80	・定時制課程(商業)を併置
			機械電気科	40	
			情報技術科	40	

## 【方向性2】

- ・ 工業系学科、商業系学科、家庭系学科を併設する総合産業高校を新設（総合選択制を導入）。
- ・ 敦賀高校、美方高校は、地元の普通科単独校として大学等への進学志望に対応した教育体制を強化

### 【総合産業高校のイメージ】

